

都市計画道路「矢本門脇線」大曲工区で開通式が開催されました

8月4日、東松島市大曲字寺沼地区で都市計画道路「やもとかどのわきせん おおまがひうく矢本門脇線」大曲工区の開通式が行われました。式典は、東松島市の渥美市長をはじめ関係者出席のもと、新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模を縮小して実施され、同線は午後1時から一般供用が開始されました。



開通式の様子

「いっぽんすぎ矢本門脇線」は、東松島市矢本一本杉から石巻市側で工事が進む都市計画道路「ながるせん門脇流留線」に接続する主要幹線となっており、総延長は3.98キロメートル、国道45号の渋滞緩和も期待されると共に緊急時の避難道路として重要な役割を担います。総事業費約56億4千万円は復興交付金が充てられます。

なお、東松島市から石巻市にかけて建設中の新定川大橋（仮称）を含む残る800メートル区間と前記の「門脇流留線」は来年3月に開通が予定されています。



※今回開通した大曲工区的位置図（宮城県東部土木事務所提供のデータを基に作成）

関係者は、「三陸自動車道矢本インターから石巻工業港へのアクセスも高まり、全体工事の完成後は通勤路としても利便性が高まる」と期待を込めています。